

これが安倍「働き方改革」の正体

10・27 学習会に25組織94人参加

耳触りのいい「改革」の言葉に騙されない

◆長野地区春闘共闘委員会と長野労連は10月27日(木)、学習会「安倍政権の雇用破壊を許さない」を開催しました。一日の仕事が終わってかけつけた94人の参加者で、会場がいっぱいになりました。

◆講師の伊藤さんは、「これが安倍政権の『働き方改革』の正体だ！-批判と対応」と題し、政権がねらう改革の中味を、具体的な事実によって参加者に訴え、職場や地域での運動を呼びかけました。とりわけ、耳触りのいい改革の正体を見破り、みんなで運動を進めていこうと強調しました。

◆講演を受けた交流では、自治労連、長野地域民医労、高教組長水支部、賛育会豊野労組の代表から、仲間の実態と切実な要求が語られました。

◆学習会を受け、参加者のみなさんから呼びかけられている署名やアンケートが、数多く受付に提出されました。



「働き方改革」の正体をみんなで学んだ学習会
 (2016.10.27 高校会館)

◆参加者のみなさんありがとうございました。学習会成功にむけたとりくみお疲れ様でした。

★当日のレジュメのデータが長野労連にあります。ご活用ください。学習しましょう。

参加者の感想

抜粋して掲載します

■政府の「働き方改革」の真のねらいがよく分かれるとともに、中央での審議会の具体的な論議がわかりとてもよかった。

■「同一労働同一賃金」を政権が言い出したことに「オーッ？？」とびっくりしましたが、やっぱりマヤカシなんだと講演を聞いて胸に落ちました。

■政府のねらいを見抜くために学習が欠かせないと実感。よい機会ありがとうございました。

■国民受けの良い政策の裏に隠された策略を知ることができました。参加してよかったです。

■「働き方改革」の正体が見えてきました。どう仲間に伝えるか、期待している人々に伝えるのが大切ですね。みんなで騙されないように。

★後半会場が寒く、申し訳ありませんでした。

安倍首相 憲法尊重擁護義務違反

安倍首相は10月26日、「政局から離れて、各党が自由闊達に議論をして発議案を国民に分かりやすい形でまとめてもらうことを期待したい」と、自民党の憲法改正推進本部長に述べました。憲法99条は「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。」と定めています。発言は、これに違反します。

TPPは徹底審議せよ

国会に提出された「墨塗りの資料」、交渉当時の担当大臣(甘利前TPP担当相)の説明放棄、担当大臣などからの相次ぐ「強行発言」、そして7割もの国民が求める「慎重審議」の声…国会の責任を放棄したTPP審議は異常です。
 政府と与党は、成立ありきで暴走をしています。強行採決は絶対許せません。

「働き方」アンケートに実態・願い ギッシリ No.5 10/28 現在、788 人分集約

■問5 あなたが(あなたや仲間の「働き方」で、「もしかしたらブラック?」と)感じていることなど。

・超過勤務した分の手当てが、予算の都合で全額支払われない。職員を減らして総人件費の抑制を行うのであれば、超過勤務手当を全額支払うべきと考え

- ・人手不足 ・人員不足
- ・部活指導に係の仕事が重なって忙しい時期には、土日の休みなしで働き家事もこなすとすると、本当に時間がありません。夜中に持ち帰りの仕事をやる毎日が続くと体調もおかしくなります
- ・同じ職業である夫が、2カ月で休みが1日もない

■問6 「働き方改革」で、政府に一番望むこと。

- ・給料を上げるか、教員等を増やしてほしい
- ・自分の選んだ仕事で、不安なことなく、十分な収入を得、ゆとりを持って生活できること
- ・毎日、空き時間があると余裕が持てる気がする。そのために教員の数をふやしてほしい!

- ・雇用の充実
- ・教職員の給料アップ
- ・正規雇用を増やしてほしい
- ・賃金アップ
- ・生理休暇がとれるように。賃金のアップを

■8時間きっちり仕事が終わったら、何に時間を使いたいですか?

- ・自分のために使いたい
- ・自分の趣味に時間を使いたい
- ・自分の子どもにゆっくり関わりたい
- ・家の子どもを大切にしたいです
- ・自分の時間
- ・家事をしっかりやりたいです
- ・テレビを見る
- ・趣味に使いたい
- ・自分の趣味、家族とゆっくりすごす
- ・夕食を作って規則正しい生活を送りたい

※10/27 付でアンケート中間報告を出しました。引き続き掲載していきます。

戦争させない! 11.19 集会

- 11月19日(土) 13:30~集会 ※終了後、デモ
- 上千歳広場(トイゴP隣)

通信労組のみなさん、27年間お疲れさまでした 10月で組合解散

幹事を務めていただいた朝比奈さん(前列右から4人目)を囲んで
(10/24 幹事会后、高校会館会議室にて)



解散にあたってのあいさつ

通信労組長野支部と長野分会は1989年9月に結成されました。この間、NTTの激しい「合理化」とたたかい、労働者の利益とNTTの経営民主化のためにたたかってきました。

特に2002年の「11万人リストラ」は、「NTTの構造改革」などと言って50歳以上の労働者を自主的退職に追い込み、賃金3割ダウンで子会社に再雇用するという内容でした。そして退職に応じない労働者からそれまでの仕事を奪い、遠隔地配転の仕打ちを行いました。NTTは連合労組と一体になって「これをやらなければNTTの将来は無い」「雇用確保のため」などと危機感をあおって、多くの労働者が泣く泣く退職に応じていきました。退職に応じなかった長野支部の多くの組合員は、東京などへ配転させられました。

私たちは県労連・長野労連をはじめとする多くの皆様のご支援をいただきながら、「元の職場に戻せ」とたたかいました。そして育児問題をかかえる組合員を、群馬から長野にもどすなどの成果を勝ち取りました。

NTTの構造改革は、その後も連続的に会社組織の改変を行いながら、正規労働者を多様な非正規労働者に置き換えてきました。非正規労働者の皆さんは、常に雇用の不安におびえながら業務をおこなっています。通信労組は、非正規労働者の組織化にも力を尽くしてきました。しかし支部・分会の維持は困難となり、解散の報告をすることとなってしまいました。

私たちはこれまでの皆様のご支援に対して深く感謝するとともに、今後も通信労組長野支部の再構築をめざし、NTTの経営の民主化と情報通信事業が国民の福祉と利便向上に役立つ事業として発展するよう、がんばっていききたいと思います。

通信労組長野支部長野分会 朝比奈卯一